

健康のかけはし

大田病院の「理念」

私たちの病院は

- ①だれでも安心してかかれる病院
 - ②心の通いあう、あたたかい病院
 - ③地域の人々と共に歩む病院
- であることをめざします。

大田病院は基幹型
臨床研修病院です

No. 78
2023年 1月20日

大田病院

〒143-0012 東京都大田区大森東4-4-14
☎ 03-3762-8421 発行責任者 渡邊 峰人

6月からはコロナ専用病室を開設し、コロナ感染の患者さんも受け入れられるようになり救急の流れも少し良くなった感がありました。しかし、第7波のピークの8月、9月は本当に大変でした。コロナの救急要請もコロナ以外の救急要請も月500件以上とい

年頭にあたり謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨年にもまたまたコロナに振り回された1年となりました。1月早々、回復期リハビリテーション病棟で患者さん職員合わせて60名に上るクラスターが発生し、出勤できなくなった看護師の補充のため他の病棟から応援体制を組み、結局、病院全体の看護師不足が表面化してどの病棟でも患者さんの受け入れが困難になってしまいました。そのつければ結局、完全に解決できないまま1年が終わってしまいました。



年頭のあいさつ

大田病院 院長

田村

直

う、コロナ前の4倍となり受け入れることが出来たのは20%位になってしまいました。現在も、救急車を呼んでもなかなか来てもらえず、来てでも受け入れ病院が決まらずといった状態が続いています。助けを求める方達の不安を思うとやりきれない気持ちになります。できる限り、要請に応えるように努力を続けているところです。

10月にジョギング中に転んで左の鎖骨と肋骨を骨折しました。左手を三角筋でつって外科外来を行わざるを得ず、皆様に大変ご心配をおかけしました。すぐに手術をし、今は元通りになりました。思った以上につらかったのは肋骨骨折です。くしゃみや咳き込んだりすると折れた肋骨に沿って激痛が走り息も止まりません。くしゃみをする前には両手で左胸を押さえてそっとしないといけません。12月になってやっと普通にくしゃみできるようになり安堵しました。初めて自院に入院して、全身麻酔の手術も経験しました。麻酔にかかる感触、麻酔から覚めた状態、医療用麻薬の効き目や副作用など貴重な体験

でした。病室の居心地も外科病棟の看護師のおかげで快適でした。彼らがいてくれる安心感をあらためて実感しました。いつもの検査では温め直して食べていましたが、温かいまま食べるのとはずいぶん違って数段おいしく感じました。自分の勤める病院が安心して入院できる病院で良かったと思います。

それにしても、走っていて転んで大けがというのはあまり聞いたことがなく、自分の平衡感覚の衰えを見せつけられました。今年は「足元に注意」の年にしたいと思います。今年もみんなの力を合わせて乗り切っていきたいと思っております。また1年、宜しくお願致します。



院内感染対策委員会の紹介



大田病院院内感染対策委員会は、感染防止対策を病院全体で取り組み、病院に係わるすべての人々を対象とし、院内感染発症の予防と発生時の速やかな対応に努める事を院内感染対策の基本的な考え方として、活動しています。インфекションコントロールドクター（ICD 2名）感染管理認定看護師（ICN 1名）を中心とした感染対策チーム（ICT）は、多職種で構成されており、院内感染においてそれぞれの専門性を発揮し、協働で組織横断的に感染対策に取り組んでいます。2019年よりパンデミックとなった「新型コロナウイルス感染症」対策においては、第6波・第7波において院内クラスター発生を経験しました。感染対策チームとしてどう取り組むべきか学ばせて頂きました。貴重な経験を糧に職員への感染対策啓蒙活動や、患者さん・ご家族への情報提供を行っています。また、救急外来での新型コロナウイルス感染症対応も確立でき、地域住民の方の発熱時対応も積極的に取り組んでいます。いつでも、どこでも、誰でも出来る身近な感染対策は、手指消毒です。（感染対策委員会師長 見目 廣乃）

介護する人・受ける人がともに 大切にされる介護保険制度

介護保険室 韓 正淑

介護保険は施行22年を経過しました。

介護を家族に任せず、社会で支えていくという「介護の社会化」を謳ってスタートした介護保険。しかし、政府による介護サービスの削減、費用負担の引き上げなど相次ぐ制度の見直しで、必要な介護を受けられない事例があとをたちません。今後もさらなるサービス削減、負担増の見直しが検討されています。介護保険法は、3年に1度の改正が行われます。

政府は、2023年通常国会に向けて介護保険の見直しの検討を進めています。利用料2割、3割負担の対象者拡大、要介護の1、2のサービス削減、ケアプラン有料化、補助杖などの福祉用具の貸与から購入への変更など、負担増と給付削減の提案が目白押しです。

厚生労働省は2022年11月28日、介護保険サービス利用時の自己負担が2割となる対象者を拡大する方針を社会保障審議会保険部会で示しました。介護保険部会では2024年度の介護保険制度改正

へ向けた議論を進めており、ケアプラン有料化については今回の制度改正では見送る方向となりましたが、有料化の検討は継続されます。ケアプランがなければデイサービスなどの介護保険サービスは利用できません。現状はケアプランの作成が無料な

ため、気軽に相談できません。しかし、ケアプランが有料化されると、費用的な負担があることから、デイサービスやヘルパーの回数を減らすなどが考えられます。介護保険サービスの利用回数を減らすことになる、本来は介護保険サービスが必要にもかかわらず、サービスを削る方も出てくると考えられそれによって要支援の方が要介護になるなど、介護の重度化が懸念されます。

大田病院に所属する私たち

大田病院 第5回オンライン 地域健康講座

地域の皆さま向けに
オンライン地域健康講座を開催致します

① 前立腺肥大症の治療について

泌尿器科 中村 文彦

② おうちでできる全身エクササイズ5

リハビリ科 理学療法士



参加申込み不要、参加費無料の講座となっております。
下記のURLまたはQRコードからアクセスしご覧いただけます。



①「前立腺肥大の話」

<https://youtu.be/6LdD0FY60H8>



②「エクササイズ」

<https://www.youtube.com/watch?v=Aet3UKb5SWU>

※Wi-Fi環境下での
ご視聴をお勧めします
過去の健康講座も
引き続き公開しています。

こちらの講座の画像・動画保存は禁止とし、複製・転載等ならぬようお願い致します。

お問い合わせは大田病院 地域連携室までご連絡をお願い致します。

(電話) 03-3762-8421



OT 後村 なつみ



あけましておめでとうございます。私は青森県出身で、お正月になると祖母はいつも地元の郷土料理である「けの汁」を作って孫の帰りを待っていてくれます。それがとてもおいしくて、大好きで、「今年も帰るから多めに準備しておいてね。」といつもお願いします。

そして、余ったお餅やお菓子など、持ち帰れるものを入れるために、キャリーケースの片側は空けて帰省します。たくさん食べて、キャリーケースにばんばんに詰めて、東京へ戻って、今年も頑張るぞと意気込むのです。4月からは3年目となり、少しずつ後輩を支える年となってきます。私が新人の頃は、東京へ来て初めて一人暮らしをしましたし、学生から社会人となって、自分の生活が大きく変わりました。楽しみや不安など様々な思いがあったことを今でも覚えています。来年度の新人も同じく不安が募っていることと思います。少しでも心の支えになれるように、コミュニケーションをとっていきたいです。今回は、理学療法士(PT)の山口 瑠偉斗さんです。

ケアマネジャーは昨年も介護保険制度の改善を求める請願署名に取り組みました。地域の皆さまの署名のご協力に感謝申し上げます。
介護はただ「お世話する」ものではありません。「その人らしい人生を最後まで生きること」を支えることです。私たちは、これからも介護保険制度の改善を要求します。国の公費を増やすこと、軍事情ではなく、社会保障の増額を要求し介護する人、受ける人がともに大切にされる制度を求めて活動します。

